

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名:「ハカナメ」 テーマ:「一見ヒロインぽいののに、実はヒロインではない、でも色々あってヒロインになってしまう美少女」

キャラクター

70

ストーリー

60

テーマ(設定)

65

文章力

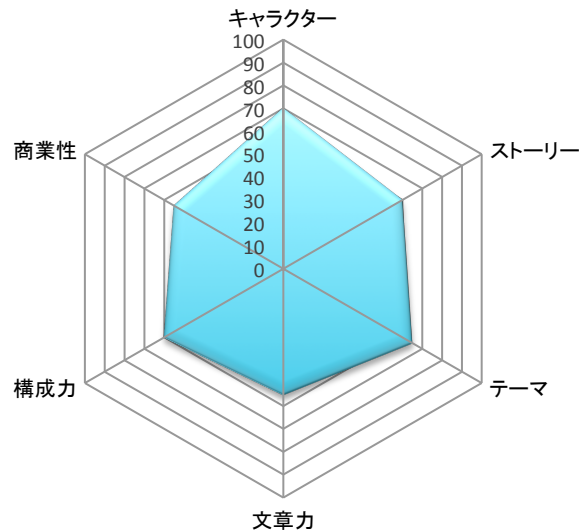
55

構成力

60

商業性

55



・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語がご都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- ・物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- ・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- ・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- ・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- ・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- ・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- ・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- ・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- ・「この作品の最大の魅力はこれ!」というものがない

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

・ハカナメがとにかく強烈で面白い(喜ぶめ?)。冒頭ではあちゃんの死というシリアスな匂いを感じさせておいてからの突然の「べろべろ」、このギャップの演出がうまい。おそらく冒頭のシリアスがこれより長くては飽き飽きするし、これより短過ぎると物語の設定のための説明に過ぎなくなり、この絶妙なバランスはうまいと感じた(ただあとほんの少しだけ短くても良かったかも?)

・年賀状から探られるばあちゃんの来線という出発点は非常に面白かった。ただあまりにそこから障害がなさ過ぎてうまくことが行き過ぎているので、「困難にぶちあたるべろべろと協力して面白い解決策で乗り越える」的な展開が欲しかった。そうすることでべろべろのキャラクターを更に深く掘り下げることができるし、その過程で結局べろべろは何者なんだという背景にも触れられるからというのが理由。

・べろべろが万能過ぎるので、主人公の存在理由が薄まってしまっている(最悪べろべろ一人でどうにでもなってしまう感じ)。べろべろをもう少し良い意味でおばか(ボケキャラ)にさせて頭を使うところは主人公の役割にするか、もしくは冒頭で主人公が墓参りにお供え用の食べ物をもっていき、それをべろべろが食べたことから「万能べろべろへの仕事依頼制(報酬は食べ物)」という設定をつけてしまうかなど、工夫が欲しい。

合計加点ポイント 0

総得点: 365 / 600

B方式総合得点: 22204 点